

日蓮大聖人御書全集

しようとんちさんぜじ

聖人知三世事

新版

1314

↓

1315

しようとんちさんぜじ

聖人知三世事

けんじがんねん
建治元年(’75)

54歳

さい

ときじょうにん
富木常忍

しようとん
もう

いきい
さんせい

じゅか
し

しようとん
い

じゅか
か

聖人と申すは、委細に三世を知るを聖人と云う。儒家の

さんこうごてい
い

さんせい
か

げんざい
し

か
み

三皇五帝ならびに三聖は、ただ現在を知つて過・未を知ら

げどう
か

かこはちまん
みらいはちまん

みらい
し

いちぶん
しようとん

ず。外道は過去八万・未来八万を知る。一分の聖人なり。

にじょう
か

みらい
いんが

し

げどう
すぐ

小乗の二乗は過去・未来の因果を知る。外道に勝れたる

しようとん
い

しようとん
ぼさつ

かこさんそうぎ
ぼさつ

ぼさつ
つうぎよう

ぼさつ
ぼさつ

聖人なり。小乗の菩薩は過去三僧祇の菩薩、通教の菩薩

かこ
どうゆじんごう
きょうりやく

べつきょう

ぼさつ

いちいち
くらい

は過去に動逾塵劫を経歴せり。別教の菩薩は一々の位

なか
たくていいこく
かこ

ほけきよう
しゃくもん

かこ
かこ

さんぜん
さんぜん

の中に多俱低劫の過去を知る。法華經の迹門は過去の三千

じんてんごう えんぜつ

いちだいちょうか

ほんもん

ごひやくじんてんごう

塵点劫を演説す。

一代超過これなり。

本門は五百塵点劫の

過去遠々劫をもこれを演説し、

また未来無数劫のこととも

宣伝す。これによつてこれを案ずるに、委しく過・未を知る

あん

くわ

か

み

し

は聖人の本なり。教主釈尊、既に近くは去つて後三月の

きょうしゅしゃくそん

すで

ちか

さ

のちみつき

涅槃これを知る。遠くは後の五百歳広宣流布疑いなきもの

のち

ごひやくさい

いこうせん

ふうたが

げん

か。もししからば、近きをもつて遠きを推し、現をもつて当

ちか

すい

げん

とう

を知る。「如是相乃至本末究竟等」これなり。

のち

ごひやくさい

いこうせん

しほんまつくきようとう

ほけきょう

ぎょうじや

し

後の五百歳には、誰人をもつて法華経の行者とこれを知

のち

たれびと

ほけきょう

ぎょうじや

し

るべきや。予はいまだ我が智慧を信ぜず。しかりといえど

よ

わ

ちえ

しん

じた ほんぎやく しんぴつ も、自他の反逆・侵逼、これをもつて我が智を信ず。あえて他人のためにあらず。また、我が弟子等、これを存知せよ。

たにん

わ で し と う ぞんち て他人のためにあらず。また、我が弟子等、これを存知せよ。

にちれん

ほけきよう

ぎょうじや

ふきよう

あと

しようけい

あんみよう

ゆえ きょうき ひと こうべしちぶん わ しん もの ふく あんみよう 故に。軽毀する人は頭七分に破れ、信する者は福を安明に

つ 積まん。

と い なん なんじ そし ひと ず は しちぶんな
問うて云わく、何ぞ、汝を毀る人、頭破七分無きや。

こた い こしやく しようと い こしやく しようと のぞ
答えて云わく、古昔の聖人は、仏を除いてより以外、

これ そし ひと ずは ひとりふたり いま にちれん きし
これを毀る人、頭破、ただ一人二人なり。今、日蓮を毀皆す

とが ひとりふたり かぎ
ることは、非、一人二人に限るべからず。日本一国一同に同

にほんいっこういちどう

おな

わ

しようか

おおじしん

ぶんえい

ちょうせい

じく破るるなり。いわゆる正嘉の大地震・文永の長星は、

誰が故ぞ。日蓮は一閻浮提第一の聖人なり。

上一人より下

ばんみん いた

かみいちにん しも

しも

万民に至るまで、これを輕毀して刀杖を加え流罪に処する

ゆえ いた

とうじょう くわ るざい しょ

が故に、梵と釈と日月・四天とは、隣国に仰せ付けてこれ

ひつせき してん

だいじつきよう い

りんごく おお

つ

を逼責するなり。大集經に云わく、仁王經に云わく、

ねはんぎよう い

ほけきよう い

い

涅槃經に云わく、法華經に云わく。たとい万祈を作すとも、

にちれん もち

かなら

くに いま

いき つしま

日蓮を用いづんば、必ず、この國、今の壱岐・対馬のごとくならん。

わ でし あお

み

にちれん

そんき

我が弟子、仰いでこれを見よ。これひとつに、日蓮が尊貴

ほけきょう おんちから しゅしよう

なるにあらず、法華經の御力の殊勝なるによるなり。身を
挙ぐれば慢ずと想い、身を下せば經を蔑る。松高ければ藤
長く、源深ければ流れ遠し。幸いなるかな、楽しいかな。
穢土において喜樂を受くるは、ただ日蓮一人なるのみ。

み